Ⅳ　教育及び研究

1　学部・大学院の概要（3つの方針）

【 学　部 】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

（汎用的・実践的技能）

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

(1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。

(2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。

(3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。

(4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

(1)『文化学部カリキュラム構成図』『文化学部カリキュラム・ツリー』『文化学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2) 学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解力〕
2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部［文化総合系（夜間主コース）］が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜（県内）、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜（県内）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜（A日程・B日程）

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 専門的知識に基づいて、看護の対象を人間、健康・環境・生活の視点から包括的に理解することができる能力を有している。

（汎用的・実践的技能）

2. 個人−家族−地域社会のダイナミズムのなかで、健康課題の解決に向けて看護を実践することができる能力を有している。
3. 保健・医療・福祉などのあらゆる場で、リーダーシップを発揮して多職種と協働することができる基礎的能力を有している。

（態度・志向性）

4. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護して看護の対象となる人々と関係性を築くことができる能力を有している。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

5. 看護専門職者として生涯にわたって研究的視点をもって看護の本質を探究し、専門性を高めることができる基礎的能力を有している。
6. 国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
(4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。

(2)看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
(3)看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指した科目を置く。
(4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)
(1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
(2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
(3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
(4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)
(1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部カリキュラム・ツリー』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
(2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)
各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒュ

ーマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等（小論文、面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査等（面接）により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域におけるソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

(1)『社会福祉学部カリキュラム構成図』『社会福祉学部カリキュラム・ツリー』『社会福祉学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

(2)各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕

4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

（汎用的・実践的技能）

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

（態度・志向性）

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

(1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

(2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

(3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

（カリキュラムの構造・教育内容）

(1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させる

ための補完科目として設置する。
(2)専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
(3)専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(4)専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。
(5)専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
(6)専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
(7)この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)
(1)基礎科目は、1年次に履修する。
(2)専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
(3)専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
(4)専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
(5)「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)
(1)専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた『健康栄養学部カリキュラム構成図』『健康栄養学部カリキュラム・ツリー』『健康栄養学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
(2)「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)
各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活でき

るよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。
したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書も参考にして質問し、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表（プレゼンテーション）します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【 大 学 院 】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人－家族－地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師（以下CNS）コース、研究コース及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目（大学院共通科目・専攻共通科目）」、「領域専門科目」及び「研究支援科目」の科目群をおく。
2. CNSコースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、災害・国際看護学、看護管理学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭（看護）専修免許に必要な科目をおく。

（順序性）

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するためにCNSコース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目を選択し、コースワークを踏まえて研究支援科目を履修できるように編成している。
7. 修士論文作成に向けて、2年次に研究計画書の提出、中間報告会の開催、修士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNSコース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
9. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
10. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第14条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

（評価方法）

11. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
12. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探求する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」及び「学内推薦」をおきます。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとします。

・一般（入試）

本区分では、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

専門科目：看護の専門的能力（専門的知識、実践能力）、論理的思考力及び社会や健康に関わる課題を分析する能力について評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価しま

す。実践リーダーコースにおいては面接時に研究計画書を活用します。

・学内推薦（入試）

本区分では、「小論文」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

小論文：看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

面接：看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価します。

○看護学研究科　看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現やQOLの向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成している。

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、共創看護学、がん看護学、成人看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学、地域看護学、学校保健学、災害・国際看護学、看護病態生理学、看護経営管理学の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

（順序性）

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、３年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

（教育方法）

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論文作成指導にあたる。

（評価方法）

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等（最終試験）を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と創造力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程における入学者選抜では、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語：英文の読解力、設問の内容を的確に把握し解答する能力を点数化して評価します。

小論文：看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験：看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法の記述から研究遂行能力について評価します。

○看護学研究科 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士（看護学）とし、（DNGL：Disaster Nursing Global Leader）を付記した、学位を授与します。

○人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
○災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
○グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
○学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

○カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学の専門科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「インデペンデント学修科目群」及び「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
○学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「インデペンデント学修科目群」に「インデペンデントスタディ」を科目として置く。
○構成大学院（「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」）は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
○学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualifying Examination を行う。
○構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

○災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
○災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3（2021）年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科　人間生活学専攻　博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問（栄養・生活学、社会福祉学、文化学）を基盤に、専攻領域及び関連領域における学術的知識を身に付けている。
2. 設定した研究課題を学際的・科学的な視点で捉え、学問の体系化と発展に寄与する研究能力を身に付けている。

領域（学位名称）別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域　＜修士（生活科学）＞

1. 栄養・生活に関する分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 地域社会の特性を踏まえ、栄養・生活に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. グローバルな視野を持って、栄養・生活に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を世界に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

社会福祉学領域　＜修士（社会福祉学）＞

1. 社会福祉学の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 地域社会の特性を踏まえ、社会福祉に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. グローバルな視野を持って、社会福祉学の新たな支援方法や資源の開発等に取り組み、創造的な実践を展開できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

文化学領域　＜修士（学術）＞

1. 文化研究の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。（知識・理解）
2. 文化に関する地域の諸課題を人文科学的または社会科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。（研究遂行能力）
3. 文化に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を地域に向けて発信できる力を身に付けている。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目（大学院共通科目、専攻共通科目）」「専門科目（栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目、文化学領域科目）」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。

2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎分野」「地域社会・多文化分野」「高齢分野」「障害分野」「児童・家庭分野」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。

（順序性）

5. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」（必修）と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択必修）を履修させる。

（教育方法）

6. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
7. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

（評価方法）

8. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価（論文審査・最終試験）を行う。
9. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

<u>領域別カリキュラム・ポリシー</u>

栄養・生活学領域 ＜修士（生活科学）＞

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として 3 つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

社会福祉学領域 ＜修士（社会福祉学）＞

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。

2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

文化学領域 ＜修士（学術）＞

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

（順序性）

1）複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。

2）課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

（教育方法）

3）文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学者選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1．人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人

2．課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人

3．専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人

4．地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」「学内推薦」「社会人」及び「外国人留学生」をお

く。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・学内推薦（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

小論文：小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験：「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちのいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容（目的・方法・期待される結果）及び研究の特色（新規性・独創性）を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書：研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・社会人（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

・外国人留学生（入試）

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション：「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。必要に応じて、特技・資格・経験などについても問う。

面接試験：「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。
2. 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、学際的な関連分野の知見をふまえて、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
3. 人間の生活に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究を実践する能力を身に付けている。

領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜博士(生活科学)＞

1. 栄養・生活に関する分野における高度に専門的な知識を持ち、栄養・生活に関する分野を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 栄養・生活に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 栄養・生活に関する分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持った教授者として、栄養・生活に関する分野における専門職教育を担う能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

社会福祉学領域 ＜博士(社会福祉学)＞

1. 社会福祉分野における高度に専門的な知識を持ち、社会福祉学を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 社会福祉学に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 社会福祉学の分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持って、地域共生社会の実現に向けて指導的役割を担うことができる研究者および専門職業人としての能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

文化学領域 ＜博士(学術)＞

1. 文化研究の分野における高度に専門的な知識と系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する事象や課題を人文科学的または社会科学的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する研究分野の発展に寄与する新たな知見を提供し、広く社会に発信することができる。(研究遂行能力)

4. グローバルな視野を持って、文化に関する研究能力を活かし、研究成果を公表することができる。（総合的な学修経験と創造的思考力）

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

（構造・内容）

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「専攻共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 専攻共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

（評価方法）

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

領域別カリキュラム・ポリシー

栄養・生活学領域 ＜博士（生活科学）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。

6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

社会福祉学領域 ＜博士（社会福祉学）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各 1 名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

文化学領域 ＜博士（学術）＞

（順序性）

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

（教育方法）

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各 1 名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的としています。したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」を行い、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験：英文の読解力と設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

領域専門：社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、研究を進めるうえでの専門知識、プレゼンテーションに基づく論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、質問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

口述試験：研究計画についての発表と質疑応答を行い、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書：研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

2 受講者の状況

【 学 部 】

(1)共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	3
英語コミュニケーションIC	271	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	3
英語コミュニケーションID	152	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	4
英語コミュニケーションIIA	20	情報処理概論	99
英語コミュニケーションIIB	12	コンピュータリテラシー	146
英語コミュニケーションIIC	19	ビジネスリテラシー	38
英語コミュニケーションIID	12	日本語表現法	0

○看護学部 看護学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIC	152	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	78	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIIA	3	情報処理概論	25
英語コミュニケーションIIB	0	コンピュータリテラシー	76
英語コミュニケーションIIC	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2
英語コミュニケーションIC	148	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	76	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	1
英語コミュニケーションIIA	2	情報処理概論	0
英語コミュニケーションIIB	1	コンピュータリテラシー	58
英語コミュニケーションIIC	0	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションIA	未開講	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIB	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0
英語コミュニケーションIC	79	英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0
英語コミュニケーションID	49	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションIIA	1	情報処理概論	38
英語コミュニケーションIIB	0	コンピュータリテラシー	28
英語コミュニケーションIIC	0	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションIID	0	日本語表現法	0

データサイエンス科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
ITリテラシー	191	AI概論	75
データサイエンス入門	27	プログラミング基礎	22

教養基礎科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
科学と人間	60	倫理学	186
基礎化学	18	哲学	83
基礎生物学	348	文学	82
社会調査基礎論	36	基礎ジェンダー学	203
日本国憲法	245	心理学	273
法学	48	心理学入門	14
政治学	18	社会心理学基礎	9
経済学	91		

課題別教養科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
生活と社会福祉	87	労働と人権	0
現代生活論	177	地域とグローバリゼーション	92
自然災害と防災の科学	137	家族関係論	134
平和論	未開講	異文化理解海外フィールドワーク	12
現代人権論	162	人権教育論	48
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	269	健康とヘルスプロモーション	49
健康スポーツ科学Ⅱ	253	栄養と健康	77
対人関係とメンタルヘルス	171		

域学共生科目

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
地域学概論	354	専門職連携論	79
土佐の歴史と文化	42	チーム形成論	78
土佐の経済とまちづくり	154	地域学実習I	348
土佐の自然と暮らし	184	地域学実習II	42
土佐の食と健康	136	域学共生実習	4

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部　文化学科

(その1)　　(単位:人)

授業科目			受講者数
文化学部共通科目	リテラシー科目	基礎演習	165
		中国語基礎Ⅰ	96
		中国語基礎Ⅱ	91
		ドイツ語基礎Ⅰ	31
		ドイツ語基礎Ⅱ	25
		フランス語基礎Ⅰ	45
		フランス語基礎Ⅱ	46
		日本語Ⅰ	6
		日本語Ⅱ	6
		情報処理演習	166
		文献調査論	138
		基礎読書法	104
	エッセンシャル科目	文化哲学	176
		文化人類学	197
		文化と権利	175
		文化と裁判	61
		公共哲学	106
		民俗学	113
		文化と経済	39
		日本文学概論	150
		言語学概論	172
		日本語学概論	161
		グローバル平和論	未開講
		社会調査論	43
		域学共生フィールドワーク	25
		文化学課題研究ゼミナールⅠ	148
		文化学課題研究ゼミナールⅡ	142
		文化学課題研究ゼミナールⅢ	168
		文化学課題研究ゼミナールⅣ	175
	キャリア形成科目	キャリアデザイン論	130
		キャリア形成論	133
		企業実習	46
文化学部専門科目	言語文化系 英語学領域	英語学概論	57
		比較言語研究	40
		対照言語学	17
		言語教育実践論Ⅰ	5
		言語教育実践論Ⅱ	5
		英語文法論	58
		英語ライティングⅠ	11
		英語ライティングⅡ	8
		英語音声学	50
		英語スピーキングⅠ	13
		英語スピーキングⅡ	8
		英語学専門演習Ⅰ	24
		英語学専門演習Ⅱ	24
	言語文化系 国際文化領域	英文化・文学史	100
		英文化・文学論	33
		米文化・文学史	27
		米文化・文学論	28
		異文化理解Ⅰ	18
		異文化理解Ⅱ	22

授業科目			受講者数
文化学部専門科目	言語文化系 国際文化領域	異文化理解Ⅲ	0
		国際日本学	9
		比較日本学	31
		国際関係論	71
		国際開発論	24
		国際文化専門演習Ⅰ	27
		国際文化専門演習Ⅱ	23
	言語文化系 日本語学領域	日本語史	46
		日本語音声学・音韻論	83
		日本語学講読	80
		日本語文章構成論	77
		国語教育学講読Ⅰ	41
		国語教育学講読Ⅱ	15
		日本語教育学概論	23
		日本語教育教材論	16
		日本語学専門演習Ⅰ	39
		日本語学専門演習Ⅱ	44
	言語文化系 日本文学領域	基礎古典	77
		日本文学史(古典)	40
		日本文学史(近代)	29
		古典文学基礎講読Ⅰ	44
		古典文学基礎講読Ⅱ	37
		古典文学講読Ⅰ	48
		古典文学講読Ⅱ	45
		近代文学講読	49
		現代文学講読	62
		中国文学史	28
		中国文学講読(散文)	29
		中国文学講読(韻文)	33
		日本文学専門演習Ⅰ	37
		日本文学専門演習Ⅱ	44
		書道	22
	地域文化創造系 地域文化領域	地域文化論	140
		日本思想史	16
		日本文化論	127
		地域文化資源論Ⅰ	111
		地域文化資源論Ⅱ	90
		文化政策論	71
		男女共同参画社会論	27
		地域防災論	79
		住文化論	105
		地域文化専門演習Ⅰ	23
		地域文化専門演習Ⅱ	20
	地域づくり領域	地域づくり論	121
		地域産業論	26
		地域分析論	60
		地方自治論	105
		NPO論	43
		地域づくりフィールドスタディ	65
		地域づくり専門演習Ⅰ	23
		地域づくり専門演習Ⅱ	20

（その2）　　（単位：人）

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	99
			観光文化論Ⅱ	79
			景観文化論	113
			観光と自然環境	121
			観光文化フィールドスタディⅠ	25
			観光文化フィールドスタディⅡ	9
			観光フィールド専門演習Ⅰ	33
			観光フィールド専門演習Ⅱ	34
		観光まちづくり領域	観光学総論	98
			観光まちづくり論Ⅰ	60
			観光まちづくり論Ⅱ	20
			観光産業論Ⅰ	93
			観光産業論Ⅱ	未開講
			観光企画論	97
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	21
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	32
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	33
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	34

授業科目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	175
			文化と統治システム	165
			社会秩序と法	89
			犯罪と法	48
			情報化社会と法文化	76
			地域社会と法文化	144
			現代法文化専門演習Ⅰ	17
			現代法文化専門演習Ⅱ	14
		生活法文化領域	生活と法文化	172
			災害と法	95
			ワーク・ライフ・バランスと法	5
			労働契約と法文化	未開講
			社会保障と法文化	0
			家族関係と法文化	未開講
			生活法文化専門演習Ⅰ	17
			生活法文化専門演習Ⅱ	12

○看護学部　看護学科

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
専門基礎科目		医学の世界	81
		生化学	81
		栄養学	81
		薬理学	92
		微生物学	83
		人体の構造Ⅰ	83
		人体の構造Ⅱ	92
		人体の機能Ⅰ	102
		人体の機能Ⅱ	89
		人体のしくみの乱れⅠ	86
		人体のしくみの乱れⅡ	87
		心のしくみ	81
		診断学	81
		治療学総論	81
		病態と治療Ⅰ	78
		病態と治療Ⅱ	81
		病態と治療Ⅲ	82
		小児と疾患	80
		公衆衛生学	82
		健康管理論	80
		保健統計学	80
		疫学	79
		地域保健政策	83
		生命の科学と倫理	69
		医療史	22
		社会保障と看護	9
		心理学と心理的支援	27
		行動科学	14
		保健行動論	4
		人間工学	4
		在宅医療	5
		医療と経営	8
		助産学	21
		助産診断論	21
看護基礎科目	基礎看護学	看護学総論	81
		人間と看護	81
		健康と看護	81
		環境と看護	81
		看護研究方法論	80
		看護哲学と倫理	83
	看護援助学	生活と看護	81
		生活援助論	82
		看護過程論	81
		援助関係論	83
		フィジカルアセスメント	84
		治療援助論	79

授業科目			受講者数
看護基礎科目	看護援助学	症状と看護	81
		看護援助の動向と課題	0
		ふれあい看護実習	81
		看護基盤実習	79
		看護実践能力開発実習Ⅰ	78
	看護管理学	看護システム論	80
		看護サービス論	84
		看護教育論	0
		看護管理の動向と課題	0
		チーム医療実習	79
		看護管理実習	83
看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	78
		急性期看護援助論	80
		回復期看護援助論	81
		急性期看護の動向と課題	13
		急性期看護実習	79
	慢性期看護学	慢性期看護論	79
		慢性期看護援助論	80
		終末期看護援助論	79
		慢性期看護の動向と課題	0
		慢性期看護実習	81
	老人看護学	老人看護学総論	80
		老人の健康と看護	80
		老人看護援助論	81
		老人看護の動向と課題	3
	精神看護学	精神看護学総論	82
		精神の健康と看護	81
		精神看護援助論	80
		精神看護の動向と課題	0
		精神看護実習	79
	小児看護学	小児看護学総論	82
		小児の健康と看護	82
		小児看護援助論	80
		小児看護の動向と課題	4
		小児看護実習	79
	母性看護学	母性看護学総論	82
		母性の健康と看護	81
		母性看護援助論	80
		母性看護の動向と課題	1
		母性看護実習	80
	助産看護学	助産看護学総論	8
		助産看護診断論	8
		助産技術論Ⅰ	8
		助産技術論Ⅱ	8
		助産看護援助論	8
		助産看護管理論	8
		助産看護の動向と課題	8
		助産看護実習Ⅰ	8
		助産看護実習Ⅱ	8

(その2)　　(単位:人)

授業科目			受講者数	授業科目			受講者数
看護臨床科目	在宅看護学	在宅看護学総論	80	総合科目		災害看護実践論	81
		在宅看護対象論	82			グローバル社会と看護Ⅰ	81
		在宅看護援助論	83			グローバル社会と看護Ⅱ	1
		在宅看護リエゾン論	0			異文化理解看護フィールドワーク	6
		在宅看護の動向と課題	0			看護地域フィールドワーク	3
		在宅看護実習	84			看護学の動向と課題	0
	地域看護学	地域看護学総論	81			看護セミナーⅠ	81
		地域の健康と看護	80			看護セミナーⅡ	0
		地域看護援助論	80			看護セミナーⅢ	0
		地域看護の動向と課題	10			看護セミナーⅣ	67
		地域看護実習	72			看護セミナーⅤ	64
	学校保健	学校保健	17			臨床看護論Ⅰ	3
		養護概説	14			臨床看護論Ⅱ	14
総合科目		看護研究	83			臨床看護論Ⅲ	31
		看護と政策	84			臨床看護論Ⅳ	1
		がん看護論	80			臨床看護論Ⅴ	4
		総合看護実習Ⅰ	83			臨床看護論Ⅵ	8
		総合看護実習Ⅱ	81			看護実践論Ⅰ	0
		家族看護実習	83			看護実践論Ⅱ	0
		看護実践能力開発実習Ⅱ	84			看護実践論Ⅲ	1
		バイオロジカルナーシング	38			看護実践論Ⅳ	0
		治療と看護	7			医学と看護の統合	83
		情報と看護	0			最新実践看護講座Ⅰ	2
		災害と看護	75			最新実践看護講座Ⅱ	0

○社会福祉学部　社会福祉学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基本科目	福祉対象入門	78
	福祉援助入門	85
	社会福祉入門演習	78
	社会福祉基礎演習	78
	心理学と心理的支援	81
	社会学と社会システム	79
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	78
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	80
	社会福祉史	73
	介護技術	10
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	78
	社会保障論Ⅱ	80
	公的扶助論	79
	障害者福祉論	75
	児童・家庭福祉論	76
	高齢者福祉論Ⅰ	79
	高齢者福祉論Ⅱ	75
	精神保健福祉の原理	24
	精神保健福祉制度論	22
	福祉行財政と福祉計画（～2020）	未開講
	福祉サービスの組織と経営	69
	権利擁護論	73
	更生保護制度	71
	保健医療サービス	76
	女性福祉論	26
	医療福祉論	64
からだとこころの理解科目	医学概論	86
	精神医学Ⅰ	26
	精神医学Ⅱ	26
	精神保健学Ⅰ	42
	精神保健学Ⅱ	36
	発達と老化の理解Ⅰ	14
	発達と老化の理解Ⅱ	17
	認知症の理解Ⅰ	16
	認知症の理解Ⅱ	16
	障害の理解Ⅰ	20
	障害の理解Ⅱ	19
	こころとからだのしくみⅠ	17
	こころとからだのしくみⅡ	17
ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	82
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	82
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	78
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	76
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	77
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	67
	ソーシャルワークの理論と方法（精神）	未開講
	面接技法	20
	医療ソーシャルワーク論	39
ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	76
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	73
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	68
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	68
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	64
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	75
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	75
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	63
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	46
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	64
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	64
	事例研究法	7
	実践記録法	0

授業科目		受講者数
	チームアプローチ	0
	スーパービジョン	0
地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	78
	地域福祉論Ⅱ	76
	地域福祉活動	3
	国際福祉論	56
	コミュニティソーシャルワーク	20
	福祉NPO論	47
	子育て支援論	8
	虐待防止論	36
社会復帰支援科目	ケアマネジメント論	32
	ケアマネジメント演習	11
	ケアプラン策定法	4
	就労支援サービス（～2020）	未開講
	精神障害リハビリテーション論	39
精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習（～2020）	未開講
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	21
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	25
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	21
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	25
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	25
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	25
介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	17
	介護の基本Ⅱ	12
	介護の基本Ⅲ	15
	コミュニケーション技術	17
	生活支援技術Ⅰ	17
	生活支援技術Ⅱ	17
	生活支援技術Ⅲ	12
	生活支援技術Ⅳ	12
	生活支援技術Ⅴ	16
	介護過程Ⅰ	17
	介護過程Ⅱ	12
	介護過程Ⅲ	12
	介護過程Ⅳ	16
介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	17
	介護総合演習Ⅱ	12
	介護総合演習Ⅲ	15
	介護総合演習Ⅳ	9
	介護実習Ⅰ	17
	介護実習Ⅱ	12
	介護実習Ⅲ	15
	医療的ケアⅠ	15
	医療的ケアⅡ	8
総合科目	福祉研究法入門	80
	社会福祉調査の基礎	68
	社会福祉専門演習Ⅰ	69
	社会福祉専門演習Ⅱ	70
	社会福祉専門演習Ⅲ	74
	社会福祉専門演習Ⅳ	73

○健康栄養学部　健康栄養学科

（単位：人）

授業科目		受講者数
基礎科目	健康栄養学基礎	46
	健康栄養学応用	45
社会・環境と健康	地域健康論	40
	介護論	40
	食と介護	40
	保健医療福祉論	41
	地域医療論	3
	公衆衛生学	40
	環境衛生学実習	40
	健康情報論実習	45
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	46
	生化学Ⅱ	45
	生化学実験	40
	人体の構造と機能Ⅰ	45
	人体の構造と機能Ⅱ	45
	臨床医科学	0
	疾病論Ⅰ	40
	疾病論Ⅱ	39
	運動生理学	39
	生体科学実験・実習	39
食べ物と健康	食品学	45
	食品学実験Ⅰ	45
	食品学実験Ⅱ	40
	食材学	45
	食品の栄養素と機能	40
	食品衛生学	40
	食品衛生学実験	40
	フードシステム学	59
	調理学	46
	調理学実習Ⅰ	45
	調理学実習Ⅱ	45
	調理学実習Ⅲ	24
	調理科学実験	6
基礎栄養	基礎栄養学	45
	基礎栄養学実験	40

授業科目		受講者数
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	40
	応用栄養学Ⅱ	40
	応用栄養学実習	39
	ライフステージ栄養学	39
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	39
	栄養教育論Ⅱ	40
	栄養教育論Ⅲ	40
	栄養教育論実習Ⅰ	40
	栄養教育論実習Ⅱ	40
	学校栄養指導論Ⅰ	8
	学校栄養指導論Ⅱ	8
臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	39
	臨床栄養学Ⅱ	40
	臨床栄養学Ⅲ	40
	臨床実践栄養学	40
	臨床栄養学実習Ⅰ	40
	臨床栄養学実習Ⅱ	40
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	39
	公衆栄養学Ⅱ	40
	地域公衆栄養学実習	40
給食経営管理論	給食経営管理論	40
	給食計画論	39
	給食経営管理実習Ⅰ	40
	給食経営管理実習Ⅱ	40
総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ	40
	管理栄養士総合演習Ⅱ	42
臨地実習	給食経営管理臨地実習	40
	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	40
	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	40
	地域公衆栄養学臨地実習	40
	地域実践栄養学臨地実習	8
その他	企業実習	未開講
	健康栄養フィールドワーク	11
	HACCP管理論	38
課題研究	卒業研究	42

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	34	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	23
	教育基礎理論	19		教育実習Ⅱ	23
	教師論	72		養護実習	14
	教育社会学	49		学校栄養教育実習	8
	発達心理学	34		教職実践演習(中・高)	23
	教育心理学	50		教職実践演習(養護)	14
	特別支援教育概論	55		教職実践演習(栄養)	8
	教育課程論	56		国語科教育法Ⅰ	20
	道徳教育論	20		国語科教育法Ⅱ	18
	特別活動論	35		国語科教育法Ⅲ	16
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	49		国語科教育法Ⅳ	16
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	34		英語科教育法Ⅰ	7
				英語科教育法Ⅱ	7
				英語科教育法Ⅲ	7
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	50		英語科教育法Ⅳ	7
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	53			

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻 （博士前期課程）

（その1）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	1
		教育学特論	0
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	3
		臨床倫理	6
		グローバルヘルス論	0
		ケア論	0
		看護マネジメント論	6
	専攻共通科目	看護理論と実践	7
		看護学基盤論	6
		看護研究と実践	7
		看護倫理	7
		看護サービス管理論	6
		看護コンサルテーション論	6
		フィジカルアセスメント特論	6
		病態生理学	6
		臨床薬理学	7
		こころの発達	3
		データ分析方法論Ⅰ	3
		看護教育論Ⅰ	5
		看護教育論Ⅱ	7
		疫学研究方法論	7
		保健医療政策と経済Ⅰ	9
		保健医療政策と経済Ⅱ	9
		看護学の動向と展望	11
		看護情報学Ⅰ	2
		看護情報学Ⅱ	2
		最新専門看護実践講座Ⅰ	4
		最新専門看護実践講座Ⅱ	4
		インディペンデントスタディ	0
	共創看護学領域	看護理論と研究Ⅰ	1
		看護理論と研究Ⅱ	未開講
		学際的研究方法	0
		データ分析方法論Ⅱ	0
		看護学英語	0
		共創看護学セミナー	0
		バイオメトリクス看護学演習	0
	がん看護学領域	がん看護論	1
		緩和ケア特論	2
		がん看護方法論Ⅰ	2
		がん看護方法論Ⅱ	1
		がん看護方法論Ⅲ	1
		がん病態生理学	2
		がん診断治療学	未開講
		がん薬理学	3
		がん看護学実践演習Ⅰ	2
		がん看護学実践演習Ⅱ	1
		がん看護学実践演習Ⅲ	1
		がん看護学実践演習Ⅳ	1
		がん看護学実践演習Ⅴ	1

授業科目			受講者数
領域専門科目	慢性看護学領域	慢性看護論	1
		慢性看護対象論	0
		慢性看護方法論Ⅰ	0
		慢性看護方法論Ⅱ	1
		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講
		慢性疾患診断治療学Ⅱ	1
		慢性看護学実践演習Ⅰ	0
		慢性看護学実践演習Ⅱ	1
		慢性看護学実践演習Ⅲ	0
		慢性看護学実践演習Ⅳ	1
		慢性看護学実践演習Ⅴ	1
	クリティカルケア看護学領域	クリティカルケア看護論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護論Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅱ	1
		クリティカルケア看護方法論Ⅲ	未開講
		クリティカルケア看護方法論Ⅳ	1
		クリティカルケア診断治療学Ⅰ	1
		クリティカルケア診断治療学Ⅱ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	1
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	未開講
		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	1
	母性看護学領域	女性健康看護論	未開講
		女性健康支援論	未開講
		子育て包括ケアシステム論	未開講
		女性の健康危機マネジメント論	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅰ	未開講
		母性看護フィールド演習Ⅱ	未開講
	小児看護学領域	小児看護論	1
		小児看護対象論	1
		小児看護方法論Ⅰ	1
		小児看護方法論Ⅱ	1
		小児診断治療学Ⅰ	未開講
		小児診断治療学Ⅱ	2
		小児看護学実践演習Ⅰ	1
		小児看護学実践演習Ⅱ	1
		小児看護学実践演習Ⅲ	1
		小児看護学実践演習Ⅳ	0
		小児看護学実践演習Ⅴ	1

（その2）　　（単位：人）

授業科目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	未開講
		老人看護対象論	未開講
		老人看護方法論	1
		老人ケアシステム論	1
		老人看護展開論Ⅰ	未開講
		老人看護展開論Ⅱ	未開講
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講
		老年病診断治療学Ⅱ	1
		老人看護学実践演習Ⅰ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅱ	未開講
		老人看護学実践演習Ⅲ	1
		老人看護学実践演習Ⅳ	1
		老人看護学実践演習Ⅴ	1
	精神看護学領域	精神看護論	1
		精神看護対象論	1
		精神看護方法論Ⅰ	1
		精神看護方法論Ⅱ	1
		精神看護展開論Ⅰ	1
		精神看護展開論Ⅱ	0
		精神看護展開論Ⅲ	0
		精神看護展開論Ⅳ	0
		精神診断治療学Ⅰ	2
		精神診断治療学Ⅱ	未開講
		精神看護学実践演習Ⅰ	1
		精神看護学実践演習Ⅱ	1
		精神看護学実践演習Ⅲ	1
		精神看護学実践演習Ⅳ	1
		精神看護学実践演習Ⅴ	1
	家族看護学領域	家族看護論	2
		家族看護対象論	2
		家族看護方法論Ⅰ	7
		家族看護方法論Ⅱ	7
		家族看護実践論Ⅰ	2
		家族看護実践論Ⅱ	0
		家族療法	未開講
		家族ケアの開発	2
		家族看護学実践演習Ⅰ	2
		家族看護学実践演習Ⅱ	2
		家族看護学実践演習Ⅲ	2
		家族看護学実践演習Ⅳ	2
		家族看護学実践演習Ⅴ	2
	在宅看護学領域	在宅看護論	1
		在宅看護方法論Ⅰ	1
		在宅看護方法論Ⅱ	4
		在宅看護方法論Ⅲ	未開講
		在宅ケアシステム論	未開講
		在宅看護展開論Ⅰ	1
		在宅看護展開論Ⅱ	1
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講
		在宅療養診断治療学Ⅱ	1
		在宅リエゾン看護論	5
		在宅リエゾン看護演習	0
		在宅看護学実践演習Ⅰ	1
		在宅看護学実践演習Ⅱ	1
		在宅看護学実践演習Ⅲ	未開講
		在宅看護学実践演習Ⅳ	未開講
		在宅看護学実践演習Ⅴ	未開講

授業科目			受講者数
領域専門科目	地域看護学領域	地域看護論	未開講
		地域ケアシステム論	未開講
		地域看護展開論	未開講
		地域フィールド演習Ⅰ	未開講
		地域フィールド演習Ⅱ	未開講
	災害・国際看護学領域	災害看護論	0
		グローバル社会看護論	0
		災害・国際看護方法論	0
		感染症看護セミナー	4
		環境衛生看護セミナー	0
		共生社会看護セミナー	0
		人道支援看護セミナー	0
		災害看護管理セミナー	0
		災害看護活動論（準備期）	3
		環境防災学	1
		災害・国際看護学研究方法Ⅱ	1
	看護管理学領域	看護管理論	0
		システム経営管理論	0
		看護管理展開論	0
		看護管理の動向と展望	0
		看護管理学実践演習Ⅰ	0
		看護管理学実践演習Ⅱ	未開講
		看護管理学実践演習Ⅲ	未開講
	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		老人看護ケア研究	4
		がん看護ケア研究	0
		小児看護ケア研究	2
		慢性看護ケア研究	0
		クリティカルケア研究	0
		臨床看護管理研究	4
		臨床看護教育研究	0
		母性・助産看護ケア研究	3
	地域保健学領域	地域ケア研究	4
		学校保健研究	1
		家族ケア研究	6
		在宅ケア研究	3
		保健学研究	1
		災害・国際看護ケア研究	0
研究支援科目		看護課題研究	8
		看護学研究方法Ⅰ	1
		看護学研究方法Ⅱ	0
		看護教育学専門演習	0
		看護教育学研究方法Ⅰ	1
		看護教育学研究方法Ⅱ	1
		臨床看護学専門演習	5
		臨床看護学研究方法Ⅰ	3
		臨床看護学研究方法Ⅱ	3
		地域保健学専門演習	1
		地域保健学研究方法Ⅰ	1
		地域保健学研究方法Ⅱ	1

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	6
	理論看護学Ⅱ	3
	看護学研究方法Ⅰ	6
	看護学研究方法Ⅱ	2
	看護倫理学	4
	イノベーション看護学	7
	国際看護学	2
	医学研究方法論	0
	インディペンデントスタディ	0
	プロフェッショナルライティング	0
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	3
	共創看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	0
	がん看護学Ⅱ	1
	成人看護学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	1
	小児看護学Ⅰ	0
	小児看護学Ⅱ	0
	老人看護学Ⅰ	0
	老人看護学Ⅱ	0

授業科目		受講者数
専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	精神看護学Ⅱ	0
	家族看護学Ⅰ	0
	家族看護学Ⅱ	0
	在宅看護学Ⅰ	0
	在宅看護学Ⅱ	0
	地域看護学Ⅰ	0
	地域看護学Ⅱ	0
	学校保健学Ⅰ	2
	学校保健学Ⅱ	1
	災害・国際看護学Ⅰ	0
	災害・国際看護学Ⅱ	0
	看護病態生理学Ⅰ	0
	看護病態生理学Ⅱ	0
	看護経営管理学Ⅰ	0
	看護経営管理学Ⅱ	0
研究支援科目	看護学特別研究Ⅰ	6
	看護学特別研究Ⅱ	11
	看護学特別研究Ⅲ	6

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

（単位：人）

授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講
	理論看護学	未開講
	危機管理論	未開講
	環境防災学Ⅰ	未開講
	環境防災学Ⅱ	未開講
	グローバルヘルス	未開講
	災害法制度と政策論	未開講
	専門職連携実践論	未開講
	災害時専門職連携演習（災害IP演習）	未開講
	災害医療学	未開講
	災害心理学	未開講
	災害と文化	未開講
	災害社会福祉学	未開講
	Professional writing	未開講
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講
	Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	未開講
	災害看護活動論Ⅰ（急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅱ（亜急性期）	未開講
	災害看護活動論Ⅲ（復旧・復興）	未開講
	災害看護活動論Ⅳ（備え）	未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論	未開講
	災害看護リーダシップ・管理論	未開講
	災害看護倫理	未開講
	災害看護理論構築	未開講
	インターンシップⅠ	0
	インターンシップⅡ	0

授業科目		受講者数
インデペンデント学修科目群	災害看護ゼミナールA	未開講
	災害看護ゼミナールB	未開講
	災害看護ゼミナールC	未開講
	災害看護ゼミナールD	未開講
	災害看護ゼミナールE	未開講
	インデペンデントスタディⅠ	0
	インデペンデントスタディⅡ	0
	インデペンデントスタディⅢ	0
	インデペンデントスタディⅣ	0
	インデペンデントスタディⅤ	0
災害看護学研究支援科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講
	実践課題研究	未開講
	災害看護研究デベロップメント	未開講
	博士論文	4(0)

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士前期課程）

（単位:人）

授業科目			受講者数
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	10
		教育学特論	5
		教育心理学特論	未開講
		ジェンダー論	6
		臨床倫理	0
		グローバルヘルス論	2
		ケア論	0
		看護マネジメント論	0
	専攻共通科目	研究方法論Ⅰ	9
		研究方法論Ⅱ	9
		研究方法論Ⅲ	6
		データ解析論	3
		地域資源論	0
		健康リハビリテーション論	未開講
		福祉マネジメント論	3
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	2
		食品製造学特論	7
		調理科学特論	2
		食物科学実践演習	5
	人間栄養学	栄養学特論	3
		臨床栄養学特論	未開講
		健康動態論	0
		栄養疫学論	未開講
	栄養・生活学	栄養・生活特論	1
		実践栄養学特論	2
		栄養・生活統計論	0
		環境生態論	未開講
		災害栄養フード・アセスメント論	2
社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論	未開講
		福祉リハビリテーション論	6
		ソーシャルワーク論	8
		社会保障論	未開講
		福祉行財政論	0
		認知症ケア論	7
	地域社会・多文化	地域福祉論	7
		地域福祉政策論	未開講
		国際福祉論	未開講
		多文化福祉論	7

授業科目			受講者数
社会福祉学領域科目	高齢	介護福祉論	7
		高齢者福祉論	未開講
	障害	障害者福祉論	7
		精神保健福祉論	0
	家庭・児童	児童支援福祉論	未開講
		家族支援福祉論	8
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	1
		地域文化論Ⅱ	未開講
		地域文化論Ⅲ	1
		観光文化論Ⅰ	0
		観光文化論Ⅱ	未開講
		観光文化論Ⅲ	7
	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講
		日本文化論Ⅱ	1
		日本語文化論	未開講
		文学Ⅰ	0
		文学Ⅱ	未開講
		文学Ⅲ	5
	英語文化	英語文化論Ⅰ	1
		英語文化論Ⅱ	未開講
		英語文化論Ⅲ	未開講
		英語言語文化論特論Ⅰ	0
		英語言語文化論特論Ⅱ	0
		国際日本学	未開講
研究指導科目		栄養・生活学課題研究演習	5
		社会福祉学課題研究演習	3
		文化学課題研究演習	2

○人間生活学研究科人間生活学専攻 （博士後期課程）

（単位:人）

授業科目			受講者数
専攻共通科目		研究デザイン	未開講
		研究倫理	2
専門科目	栄養・生活学領域科目	臨床病態栄養学	0
		環境生態学	0
		人間栄養学	1
		食品機能学	2
		健康動態学	未開講
	社会福祉学領域科目	介護福祉学	0
		障害者福祉学	0
		児童・家族福祉学	0
		地域ソーシャルワーク学	1
		国際福祉政策学	0
		福祉リハビリテーション学	未開講

授業科目			受講者数
専門科目	文化学領域科目	地域文化学Ⅰ	1
		地域文化学Ⅱ	0
		言語文化学Ⅰ	0
		言語文化学Ⅱ	0
研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	2
		栄養・生活学特別研究Ⅱ	0
		栄養・生活学特別研究Ⅲ	1
		社会福祉学特別研究Ⅰ	1
		社会福祉学特別研究Ⅱ	0
		社会福祉学特別研究Ⅲ	0
		文化学特別研究Ⅰ	0
		文化学特別研究Ⅱ	0
		文化学特別研究Ⅲ	0

３ 科目等履修生・特別聴講学生の状況

（1）科目等履修生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数
観光産業論Ⅰ	1
社会秩序と法	1

（2）特別聴講学生

（単位：人）

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
基礎演習	5	基礎ジェンダー学	1
中国語基礎Ⅰ	4	心理学	5
感染症看護セミナー	2	現代人権論	5
災害看護活動論（準備期）	1	健康スポーツ科学Ⅰ	3
環境防災学	1	対人関係とメンタルヘルス	3
中国語基礎Ⅱ	1	栄養と健康	3
ドイツ語基礎Ⅰ	2	地域学概論	2
日本語Ⅰ	5	英語文法論	2
日本語Ⅱ	5	日本語音声学・音韻論	2
文化人類学	4	基礎古典	2
文化と権利	3	近代文学講読	1
文化と裁判	1	日本文化論	1
日本文学概論	3	観光文化論Ⅰ	2
言語学概論	2	観光と自然環境	1
日本語学概論	2	観光学総論	4
ビジネスリテラシー	1	観光産業論Ⅰ	3
基礎生物学	4	社会秩序と法	1
経済学	1	生活と法文化	3
倫理学	3		

4　教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

（1）教員免許状取得状況（過去3年間分）

（単位：人）

学部・学科	区　分		令和5年度	令和6年度	令和7年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	18	17	24
		中一種免（英語）	8	4	8
		高一種免（英語）	8	4	8
		中一種免（国語）	10	13	16
		高一種免（国語）	10	13	16
	教員就職者数		15	10	16
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	12	8	14
		一種免（養護）	12	8	14
	教員就職者数		5	2	0
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	15	9	8
		一種免（栄養）	15	9	8
	教員就職者数		2	3	4
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免（看護）	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数			
		中専修免（英語）			
		高専修免（英語）			
		栄教専修免			
合　計	免許状取得者数（実人数）		46	35	47
	教員就職者数		22	15	20

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

（2）国家試験合格状況

（単位：人）

国家資格	受　験　日	区　分	受験者数	合格者数	合格率
看　護　師	令和8年2月15日	新　卒	83	81	97.6%
		既　卒	0	0	
保　健　師	令和8年2月13日	新　卒	75	69	92.0%
		既　卒	0	0	
助　産　師	令和8年2月12日	新　卒	8	8	100.0%
		既　卒	1	1	100.0%
社会福祉士	令和8年2月1日	新　卒	66	66	100.0%
		既　卒	8	6	75.0%
精神保健福祉士	令和8年1月31日 令和8年2月1日	新　卒	25	25	100.0%
		既　卒	0	0	
介護福祉士	令和8年1月25日	新　卒	8	7	87.5%
		既　卒	0	0	
管理栄養士	令和8年3月1日	新　卒	42	28	66.7%
		既　卒	0	4	

（3）専門看護師・認定看護管理者合格状況

（単位：人）

専門看護分野名	合格者数
がん看護	0
慢性疾患看護	0
急性・重症患者看護	0
小児看護	1
精神看護	0
家族支援看護	1
在宅看護	1
老人看護	0
認定看護管理者	1

５ 学位等及び大学賞･学長賞等の授与状況

（1）学位等授与状況

〇博　士

（単位:人）

研　究　科　名	博　　士	
	令和7年度	累　　計
看護学研究科(博士後期課程)	5	57
看護学研究科(博士課程)	0	8
人間生活学研究科(博士後期課程)	1	16
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合　　計	6	131

〇修　士

（単位:人）

研　究　科　名	修　　士	
	令和7年度	累　　計
看護学研究科(博士前期課程)	14	367
人間生活学研究科(博士前期課程)	11	216
合　　計	25	583

【学位授与者一覧】

〇博　士

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和7年9月24日	博士(看護学)	石浦　光世	重度の障害のある幼児期のこどもが社会に参加する力を育む看護支援
令和7年9月24日	博士(看護学)	宮脇　聡子	遺伝性腫瘍と診断された乳がんサバイバーのTransition
令和7年9月24日	博士(看護学)	中村　夏子	浮腫の測定による心不全の評価
令和8年3月19日	博士(看護学)	池田　恵美子	スタッフナースのセルフリーダーシップに関する研究
令和8年3月19日	博士(看護学)	田之頭　恵里	計画手術からの回復過程にある学童期の子どもの主体性の様相
令和8年3月19日	博士(生活科学)	小山　智久	小麦粉ドウへのNaCl、水、及び各種ポリフェノールの添加が小麦粉ドウ内の化学的相互作用や加工特性に及ぼす影響

〇修　士

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和7年9月24日	修士(看護学)	阿部　李佳子	COVID-19 パンデミックに立ち向かった訪問看護師のレジリエンス
令和7年9月24日	修士(学術)	GU JUNHAO	吉延棚田の開発と保護に関する研究-中国の棚田景観の開発利用の経験を参考にして
令和8年3月19日	修士(看護学)	安岡　愛	急性期一般病棟の身体拘束最小化に関する研究
令和8年3月19日	修士(看護学)	淺香　早希	入退院を繰り返す心不全患者と共に生活する家族の家族マネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	穴吹　亮典	成人初期にある精神障害者の社会的自立を支える親への看護実践

○修　士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏　名	論　文　名
令和8年3月19日	修士(看護学)	榎島　美静	慢性疾患とともに生きる思春期の人々の症状マネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	岸本　晶子	看護師が日常生活援助の中で行う自らの意思を言語的に表明できない高齢者の意向を汲み取るケア
令和8年3月19日	修士(看護学)	坂本　美紀	地域包括支援センターにおける救急外来からの帰宅時支援の情報活用
令和8年3月19日	修士(看護学)	佐條　萌梨	診療所で行う2型糖尿病をもつ就労者への治療継続支援―CDEJ資格を有する看護師への質問紙調査から―
令和8年3月19日	修士(看護学)	柴﨑　有美	未成年の子どもを持つ終末期がん患者の家族に対する家族支援専門看護師による家族支援
令和8年3月19日	修士(看護学)	園田　真利子	急性期病院におけるせん妄の高齢患者の「もてる力」を捉える援助
令和8年3月19日	修士(看護学)	長尾　涼太	外来に通院している軽症脳卒中患者の再発予防に向けたセルフマネジメント
令和8年3月19日	修士(看護学)	羽澤　昌里	がん薬物療法の継続を中止した後期高齢がん患者の意思決定のプロセス
令和8年3月19日	修士(看護学)	方　愛	新人看護師の臨床判断における「気づき」の認知的プロセス
令和8年3月19日	修士(看護学)	矢野　晋平	ICUにおける人工呼吸器装着患者の日常生活行動
令和8年3月19日	修士(学術)	北村　優佳	GHQ/SCAP・CIE映画に関する批判的談話分析
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	角　操	特別養護老人ホームにおける「在宅・入所相互利用加算」の実践方法の研究
令和8年3月19日	修士(生活科学)	門脇　愛美	近赤外線分光法を用いた共存物質存在下におけるペクチンゲルの硬度測定と共存物質がもたらす化学構造変化の解析
令和8年3月19日	修士(生活科学)	小柳　彩華	フキの葉抽出物の抗糖尿病作用に着目した機能性の評価
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	CUI XIAOMAN	過疎地域における遠隔医療の実践方法に関する研究―都道府県デジタル推進計画および回復期病院の取り組みの分析―
令和8年3月19日	修士(社会福祉学)	篠原　志津	子ども・若者・家庭の多面的な生活課題に対応し得る総合的な地域支援ネットワーク体制の構築に関する一考察
令和8年3月19日	修士(生活科学)	中城　仁暉	疾患モデルマウスを用いた炎症性腸疾患の新規治療法の探究 ～腸管破骨細胞を治療標的として～
令和8年3月19日	修士(学術)	REN CHENTAO	衰退している伝統産業の復興による地域活性化する研究 ―高知県の竹産業を中心に―
令和8年3月19日	修士(生活科学)	前田　律子	イタドリ茎部由来成分の抗アレルギー作用について
令和8年3月19日	修士(生活科学)	三澤　伶輔	クロモジ抽出物投与によるマウスの骨格筋増量作用とそのメカニズム

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)	部　局　内　訳
令和8年3月19日	地域共生推進士	39	文化学部23名、看護学部14名、社会福祉学部2名

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称　号	授与者人数(人)
令和8年3月19日	日本語教員	5

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より高い目標を掲げ、熱意をもって学業へ取り組み、周囲と協働関係を築き、向上心をもって看護実践と看護研究に励み、特に優秀な成績を収めた。
人間生活学研究科	人間生活学専攻 博士前期課程	2	1	大学入学以来、博士前期課程修了に至るまで常に高い志と熱意をもって研鑽に励み、優れた学業成績と研究成果を収め、学術と社会の発展に貢献した。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	小川　亮	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生を推薦いただき、選考を行った。 今年度は、文化学部9名、看護学部6名、社会福祉学部6名、健康栄養学部3名、計24名の学生が受賞した。
			谷口　茉優	
			千頭　紗綾	
		3	逢坂　珠穂	
			安岡　沙里	
			下村　彩巴	
		2	亀田　菜月	
			山本　和花	
			有澤　杏	
看護学部	看護学科	4	藤崎　里奈	
			大岩　由奈	
		3	手水　彩夏	
			御手洗　澪	
		2	島居　那奈	
			西内　彩花	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	井上　萌実	
			植田　愛唯	
		3	上間　怜奈	
			安光　乃彩	
		2	大津　絢那	
			尾﨑　結衣	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	大島　綾乃	
		3	田中　千尋	
		2	大原　涼叶	

【学長賞】

所属	学科	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	元久　莉緒	オーテピア高知図書館と協働し、読書文化向上に貢献。YouTubeで40本超の読み聞かせ動画を制作し、SNSで魅力を発信。ビブリオバトル高知大会では運営を担い、活字文化推進会議では全国大会の運営のみならずバトラーとして参加するなど、継続的な活動と積極性が高く評価されている。
			佐保　菜々美	
			松宮　末妃	RKC高知放送のラジオ番組「なないろクレヨンUoK！」を企画・構成し、高知県や本学の魅力を発信している。地域活動やイベント紹介を継続し、学生目線で社会課題も伝え、県民に新たな視点を提供。県と本学の認知度向上に大きく貢献した。
			金子　礼奈	
看護学部	看護学科	4	岡邉　里香	「イケあい地域災害学生ボランティアセンター」第11代幹部として、未災地ツアーを復活し、中学生と地域住民をつなぎ減災意識を啓発。交流イベントや学習会を企画し、防災サークルの存続と地域防災に尽力し、後輩の模範となった。
			佐々木　祐奈	
			高倉　萌々子	
			一ノ瀬　航	入学時から災害看護を志し、災害看護に関する学習会の開催や地域防災訓練に参加。能登半島地震では「日本災害医学会学生部会（DMAS）」会員として石川県庁で保健医療対策本部を支援したり、輪島市でボランティア活動を実施したりと、地域貢献活動を推進した。
			坂　衣織	
			有馬　朋佳	「健援隊」の活動において、高齢者への健康便りや避難訓練、保育園児への健康教育、紅葉祭でのAED体験など幅広く実施し、地域のヘルスリテラシー向上とセルフケア支援に貢献した。後輩の相談役として10年続く活動の継承にも尽力した。
			伊藤　優	
			松井　萌	
			渡部　遥伽	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	森岡　ふみ	手話を通じた地域活動、女子カフェやDV予防講座の企画・講師、精神・発達障害理解促進に継続的に取り組んだ。手話では県最年少で通訳試験挑戦予定の実力を持ち、リカバリーカレッジでの活動も評価され、地域課題解決に貢献した。
			石川　紗羅	防災ではサークル代表として活動再開を牽引し、未災地ツアーや被災地支援に参加。地域づくりでは高齢者訪問や防災食づくりを住民と協働。さらに女子カフェやDV予防講座を企画・講師として実施し、若者支援と地域課題解決に貢献した。
			UOK手話サークル	「手話は言語である」ことを軸に、専門職を目指しつつ地域で手話普及に尽力した。勉強会や高齢者講座、福祉フェア、こども食堂など幅広い世代に活動を展開した。県条例PR動画出演など啓発にも貢献し、手話普及に不可欠な存在となっている。
			Kochi Teens Base	学校に通いづらい中高生の居場所づくりに参画。空間づくりや広報を担い、毎週の活動で子どもに寄り添い、笑顔や自己表現を引き出した。運営協議会で提案も行い、地域に新たな安心できる場を創出している。
			かんきもん	援農部門を中心に過疎地域で住民と協働し、農業体験や商品開発を通じて地域資源を活かした地域活性化に貢献。担い手不足解消や連携の重要性を学び、持続可能な地域づくりに寄与した。
			ジェンダーカフェ	高知県初の中高生女子カフェ「FIRST PLACE」の設計・運営に主体的に参画し、県職員や支援団体と協働。デートDV予防講座や高校出前授業を企画・実施し、独自教材で講師も務めた。先駆的な取り組みで、若年女性支援と地域課題解決に貢献した。
			土曜の永国寺カフェ企画運営団体	社会的処方を軸に、地域包括支援センターや住民と協働し、学びとつながりの場を創出。大学の学びを地域に還元し、認知症理解の普及にも貢献し、地域から高い信頼を得ている。
			永国寺はらっぱフェス企画運営団体	永国寺はらっぱフェスの企画段階から2年間継続参加し、会場運営やカフェ提供、編みぐるみ制作などでイベントのより良い雰囲気づくりに貢献。地域交流を促進し、学生・住民に大きな影響を与えた。

協定校	氏名	内容		招聘者
健康栄養学部	健康栄養学科	4	芦田　真子	1回生から地域貢献活動に積極的に参加。COME☆RISHでは部長として米の収穫から販売まで担い、消費拡大に貢献。「小1サポーター」として小学校で担任補助や児童支援を3年間継続し、児童や教員から高評価を得た。
			東出　彩未	こども食堂で調理補助や盛り付け、片付けを行い、食事提供を支援。子どもと遊びや学習を通じ交流し、夏祭りやクリスマスなどのイベント準備も担当。複数の食堂で4年間活動し、地域に信頼される存在となった。
			馬場　日和	室戸ボランティアリーダーとして教育事業活動に主体的に参加。キャンプ企画長や副代表を務め、企画書作成から実施まで中心的役割を果たし、自然体験を通じた学びを提供し地域教育に貢献した。
			鍬﨑 ひかる	立志社中チームおよび活輝創生実行委員会で4年間活動。桜まつり企画や代表として地域再生に尽力し、調整力と発想力で特色ある取組を創出。尾川地区の課題解決に貢献し、地域から信頼される存在となった。
			大西　彩花	「香川Olive Deers」に所属し、全日本社会人ホッケー選手権で2年連続準優勝。また、「高知社会人ホッケークラブ」にも所属し、高知・香川両チームで練習を重ね、学業と両立し地域スポーツ振興にも貢献した。
文化学部	文化学科	4	麻岡　里光	RKC高知放送のラジオ番組「なないろクレヨンUoK！」を企画・構成し、高知県や本学の魅力を発信している。また、おおとよ探検隊の創設および主要メンバーとして、地域の魅力を広く社会に伝え、地域社会の活性化に大きく寄与した。
			太田　璃乃	大豊町立川地区で学生主体のカフェ運営や広報活動を行い、地域住民と交流しながら魅力を発信。過疎高齢化が進む地域に活力をもたらし、地域資源の発見や新規事業にも挑戦。域学共生の理想的モデルとして高く評価されている。
			岡本　奈津子	
			久保　彩音	
			清水　涼花	
			天羽　優衣	
			末政　七海	

（6）サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
エルムズカレッジ	・Stephy Beauzile ・Nathaniel Caraballo ・Kayleen Delgado-Ruiz ・Alistair Hoffman-Ovens ・Kayla Joyce ・Thorn Tuttle	アメリカ、エルムズカレッジ短期受入研修 2025年5月24日～6月5日	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学 開南大学	・林詩璇 ・許竣傑 ・郭倞廷 ・王怡蘋	高知の産業・伝統文化を学ぶ高知県立大学プログラム 2026年1月23日～1月30日	高知県立大学 （国際交流センター）
国立木浦大学校	・姜慧蓮 ・金拏冏 ・金秀嬪 ・羅炫燁 ・朴恩瑩 ・李叡侖 ・李侖珍 ・鄭贇書 ・鄭賀榮 ・曺謙 ・曺律 ・黃多偕 ・黃秀正 ・Kim Chaeun ・Choi Ranhee	韓国、国立木浦大学校受入プログラム 2026年1月19日～1月30日	高知県立大学 （国際交流センター）
北京聯合大学旅游学院文藻外語大学 国立木浦大学校	・何雨晨 ・臧書睿 ・陳侑欣 ・吳鈺柔 ・李韶二	2025年度交換留学生	高知県立大学 （国際交流センター）
文藻外語大学	・涂品帆 ・何妤欣	中国語教育実習 2025年10月1日～2026年2月16日	高知県立大学 （文化学部）

6 SD・FD活動実施状況

（1）全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
SD	令和7年度SD研修（ハラスメント防止研修） 「高等教育機関の特徴をふまえた職場のウェルビーイング向上」	上月　翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師 ）	令和7年9月30日	108	人権委員会	－
FD	第1回社会的処方研究会「健やかで幸せに老いるために－高知県津野町のニーズ調査を参考にして」	地域共生学研究機構 機構長　甲田 茂樹 氏	令和7年5月14日	57	高知県立大学地域共生学研究機構	FD専門部会
	強い公立大学の在り方を考える～誰も経験したことのない少子化時代への対応～	リクルート進学総研所長・カレッジマネジメント編集長 小林浩　氏	令和7年8月22日	54	高知工科大学	高知県立大学
	学生対応のための精神障害の理解	高知県精神保健福祉センター 所長　山﨑正雄　氏	令和7年11月12日	94	FD専門部会	－

（2）部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主 催	共 催
文化学部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員7名	令和7年9月8日	15	文化学部FD委員会	－
看護学部・看護学研究科	看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版　Appendixの理解と活用	日本看護系大学協議会常任理事 鎌倉やよい氏 看護実践能力評価基準検討委員会副委員長 西村礼子氏	令和7年4月28日	24	日本看護系大学協議会	－
	文部科学省・厚生労働省からの情報提供	文部科学省高等教育局医学教育課 加藤治実氏 厚生労働省医政局看護課 習田由美子氏	令和7年6月20日	12	日本看護系大学協議会	－
	看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーの評価方法について	日本看護系大学協議会常任理事 鎌倉やよい氏 看護実践能力評価基準検討委員会副委員長 西村礼子氏	令和7年7月14日	14	日本看護系大学協議会	－
	第3回JABNE研修交流集会	①東京都立大学 大学教育センター教授松田岳士氏 ②パネリスト兵庫県立大学看護学部教授 川崎優子氏 愛知医科大学看護学部　教授　心光　世津子　氏	令和7年8月20日	9	日本看護学教育評価機構	看護学部FD委員会
	「令和6年度改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に関する理解を深める1回目	グループワーク及びディスカッション	令和7年9月18日	41	看護学部FD委員会	－
	次世代育成力強化に向けた教授能力開発	千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長 和住淑子氏	オンデマンド動画視聴+個人ワーク	5	千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター	－
	「令和6年度改訂版看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に関する理解を深める2回目	グループワーク及びディスカッション	令和7年11月12日	39	看護学部FD委員会	－
	看護を語る会	青木早苗（看護学部　教授） 島本亮（看護学部　教授） 岩井由里（看護学部　助教） 小松原大典（看護学部　助教）	令和8年3月16日	47	看護学部FD委員会	－
社会福祉学部	大学の魅力発信に向けて	広報委員会	令和7年5月21日	22	社会福祉学部FD委員会	広報委員会
	新たな研究シーズの共有	田中顕悟（社会福祉学部　准教授） 井上夏子（社会福祉学部　講師） 清家庸佑（社会福祉学部　講師）	令和7年5月26日	23	社会福祉学部FD委員会	－

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
社会福祉学部	競争的資金獲得のための準備と方法	河内康文（社会福祉学部　准教授） 田中眞希（社会福祉学部　講師）	令和7年7月28日	21	社会福祉学部FD委員会	－
	学生の修学支援1	FD委員会	令和7年9月22日	21	社会福祉学部FD委員会	－
	ハンセン病と差別の連鎖	木村真三　氏	令和7年12月8日	10	社会福祉学部FD委員会	－
	社会福祉学部の価値創出	清家庸佑（社会福祉学部　講師）	令和7年12月22日	19	社会福祉学部FD委員会	－
	ウェルビーイングを学ぶ	田中きよむ（社会福祉学部　教授）	令和8年1月26日	20	社会福祉学部FD委員会	－
	チーム基盤型学習と教育効果	秋谷 公博（地域教育研究センター准教授）	令和8年2月9日	23	社会福祉学部FD委員会	－
健康栄養学部	科学研究費助成事業の概要、科研費獲得の方法とコツ（実例とポイントでわかる採択されるための申請書の書き方）について	公立大学教職員研修システム	令和7年7月10日～9月4日	8	健康栄養学部	－
	入学前教育プログラム（基礎学力支援、職業理解と心構えの形成）について	株式会社進研アド　平田様 竹井悠一郎（健康栄養学部　准教授）	令和7年10月1日	13	健康栄養学部	－
	令和7年度 包括連携事業 生活習慣病予防のための料理教室の実施報告（包括連携事業担当者からの情報提供と意見交換）	隅田有公子（健康栄養学部　講師）	令和8年1月19日	19	健康栄養学部FD委員会	－
地域教育研究センター	要配慮の学生への対応について	石山貴章 （地域教育研究センター　教授）	令和7年6月16日	5	地域教育研究センターFD委員会	－
	域学共生と地域貢献について	秋谷公博 （地域教育研究センター　准教授）	令和8年3月3日	4	地域教育研究センターFD委員会	－

（3）全学人権研修会

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
全学	令和7年度SD研修（ハラスメント防止研修） 「高等教育機関の特徴をふまえた職場のウェルビーイング向上」	上月　翔太（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師 ）	令和7年9月30日	108	人権委員会	－

（4）部局別人権研修会

部　署	内　容	講師・担当者	年月日	参加者数（人）	主　催	共　催
文化学部	開催無し	－	－	－	－	－
看護学研究科	令和7年度 第1回看護学部人権研修 （臨地実習における倫理的配慮）	ハラスメント等防止専門部会委員 （看護学部）	令和7年5月21日	34	人権委員会	－
看護学部・	令和7年度 第2回看護学部人権研修 （－互いを尊重し高めあう組織と人づくり－ キャンパスハラスメントを防ぐために）	手島 恵 （東京医療保健大学副学長）	令和8年1月28日	37	人権委員会	－
社会福祉学部	教育・研究活動とハラスメント	田中 顕悟 （社会福祉学部　教授）	令和8年3月4日	22	人権委員会	社会福祉学部FD委員会
健康栄養学部	だれもが幸せにくらすために ～ハラスメント防止に向けて ～	江渕 弘明（公益財団法人 高知県人権啓発センター）	令和8年3月10日	18	人権委員会	－
地域教育研究センター	障がいのある学生への対応と考え方	石山　貴章 （地域教育研究センター　教授）	令和7年6月16日	4	人権委員会	地域教育研究センターFD研修会
事務局	大学におけるハラスメントの防止対策について	宮林 常崇（一般社団法人公立大学協会 参与） ※オンデマンド形式で実施	〈視聴期間〉 令和7年7月1日～ 令和7年9月30日	53	人権委員会	－

（5）学外研修

部　署	内　容	期　間	参加者数（人）	主　催
事務局	新規採用職員研修（基礎①）	令和7年4月14日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者）	令和7年4月11日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎①） （受講方法：オンライン）	令和7年4月21日～5月20日 令和7年5月14日～6月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者） （受講方法：オンライン）	令和7年4月21日～5月20日 令和7年5月14日～6月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎②）	令和7年5月12日	1	高知県
	新規採用職員研修（基礎③）	令和7年6月16日～6月17日	1	高知県
	新規採用職員研修（社会人経験者）	令和7年6月20日	1	高知県
	公立大学に関する基礎研修 （受講方法：オンライン）	令和7年4月18日	2	一般社団法人公立大学協会
	「次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）」開講講義	令和7年5月23日	4	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	公立大学職員セミナー（初任職員向け）	令和7年8月25日～8月26日	3	一般社団法人公立大学協会
	SPODフォーラム2025	令和7年8月27日～8月29日	14	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	高知工科大学SD研修（SPOD内講師派遣プログラム）　これからの教職協働	令和7年9月8日	3	高知工科大学
	香川高等専門学校（SPOD内講師派遣プログラム）　職員のためのわかりやすい説明入門	令和7年9月16日	1	香川高等専門学校
	公立大学法人会計セミナー（中級） （受講方法：オンライン）	令和7年9月24日～令和8年1月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）	令和7年10月2日～10月3日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）	令和7年10月30日～10月31日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク